

日本の食と農の未来を切り拓く。 若手職員が語る、「挑戦と成長」

最前線で活躍する若手職員2人が登場し、
農林水産省だからこそできる成長や
そのための姿勢などについてお聞きしました。



及川 俊太郎

農産局地域作物課係長
令和3年入省／総合職農業科学・水産
農学部

竹内 佳穂

大臣官房広報評価課広報室係員
令和3年入省／一般職行政
文学部

志望動機について 教えてください。

及川 日本の食を支えたいと考えたためです。私は岩手の大自然の中で育ち、幼い頃から両親に食や自然に関する知識を教わってきました。大学では農学部に進学し、植物育種学や食品栄養学等を幅広く学びながら進路を考える中で、周りの友人たちが、美味しいものを食べたときの笑顔を見るのが大好きで、その笑顔が日本中に広がって欲しいと感じるようになりました。この思いから、日本の食を支えるために農林水産省に入省したいと決意しました。

竹内 及川さんは学生時代の学びを活かして就活をされたのですね。私はやりたいことがたくさんあり、何をしたいか定まっておらず、就活中は、これからの人生をどう生きてゆきたいのか、じっくり考えました。自分のために働くことも大事ですが、それが人のためになることなら、さらに素晴らしいと思いました。「人が生きていくうえで欠かせない食を支える」という仕事

は、より多くの人の役に立てる仕事だと感じ、また国家公務員として特定の人に限らず、社会全体に貢献できる点にも魅力を感じ、農林水産省を志望しました。

及川 竹内さんが言うように、社会全体の役に立つという点は公務員としてのやりがいです。竹内さんは、より多くの人の役に立てる仕事だと感じ、また国家公務員として特定の人に限らず、社会全体に貢献できる点にも魅力を感じ、農林水産省を志望しました。

所属されている部署と、 業務内容を教えてください。

及川 私が所属する地域作物課では、国内の砂糖の安定供給を担っています。砂糖は国民の摂取カロリーの約8%を占める重要な品目です。また、その原料であるてん菜は、北海道の畑作において輪作体系を構成する重要な作物、さとうきびは、台風災害への高い耐性を有し、鹿児島県の南西諸島や沖縄県において、代替のきかない作物です。こうした甘味資源作物の生産は、製糖工場や関連産業などと相まって、地域の雇用・経済を支える重要な役割を担っています。地域作物課は、この砂糖の国内生産を維持するための「糖価調整制度」の安定運営を担っています。この制度を簡単に説明すると、砂糖の原料糖を輸入する砂糖メーカーから調整金を徴収し、これを財源として国内産糖の支援に充当する仕組みです。その中で私は、輸入加糖調製品（砂糖と砂糖以外のココアや粉乳等の混合物）からの調整金徴収の運用を担当しています。

竹内 私は現在、広報評価課広報室に所属しています。広報室としてのミッションは、農林水産省の取組や農林水産省に関する情報を国民の皆さまに早く正確に伝えること。その中でも私は主にSNSを活用した広報業務を担当しており、YouTube、X、Facebook、Instagramなどを通じて情報を届けています。特にYouTubeチャンネル「BUZZMAFF」では、動画の企画から撮影、編集までを手掛けており、視聴者の皆さまにわかりや

すく楽しんでもらえるような情報発信を心掛けています。

及川 私も竹内さんの広報室には何度もお世話になっています。特に、地域作物課が展開する砂糖の消費拡大運動「ありが糖運動」で作成する資料や発信内容について、広報の視点から適切なアドバイスをいただけるので、とても助かっています。

竹内 ありがとうございます！広報室は省内部署から広報相談を受けることがあり、多くの部署と一緒に国民の皆さまにとって必要な情報を届けられるよう取り組んでいます。施策担当部署と協力し、より効果的な情報発信ができた時はやりがいを感じます。及川さんの業務も、地域の砂糖生産を支えるという、非常に重要で責任のあるお仕事だと思います！

現在の業務で面白さを 感じる瞬間は？

及川 私の業務で特に面白さを感じるのは、自分も含めて議論した政策が国全体に与える効果を実感できる瞬間です。例えば、糖価調整制度を通じて国内に砂糖を安定供給する仕組みは、国内の農業だけでなく、国民生活全体に影響を与えます。大きなスケールの仕事に携わること、達成感とやりがいを感じますね。

竹内 広報室では、SNSを通じて発信した情報がどのように受け取られているのか、反応をダイレクトに感じられるのが面白いです。どうしたらより分かりやすく伝えられることができるか、日々考えています。農林水産省のSNSをきっかけに、

少しでも農林水産省に関心を持ってくれる方が増えると嬉しいです。

農林水産省で成長を 感じるポイントは何ですか？

及川 私は入省1年目から大きなプロジェクトを任せられました。例えば、福島第一原子力発電所事故からの復興対応では、国際的な場で日本の食品の魅力や安全性を発信するプロジェクトの取りまとめ役を担いました。東京オリンピックを契機に、国内外の記者の方をお呼びして、プリーフィングをするという大掛かりなもので、大きなプレッシャーがりましたが、乗り越えたことでプレッシャーに強い精神力が培われました。また、現在の部署では、企業の経営者と直接意見交換をする機会が多く、その中でコミュニケーション能力の向上や視野の広がりを実感しています。

竹内 1年目から大きなプロジェクトを担当しているのはすごいです！私も責任感という点は似ているかもしれません。広報業務を通じて、緊張感と責任感が培われましたね。特に、発信した情報が省全体の印象に直結する可能性があるため、慎重さが求められます。また、多くの人々に情報を届けるという経験を重ねる中で、自分の考えに固執しないように、より多くの意見を見たり聞いたりして、物事を考えるようになりました。

及川 農林水産省は若手から大きな仕事を任せられてもよいこと多いですね。責任感を持って取り組むことで、自然と成長につながると思います。

農林水産省で成長するには、 どのような姿勢が必要だと お考えですか？

竹内 さきほど及川さんのお話にもあったように、農林水産省は若手職員にも挑戦の機会を与えてくれる環境です。そのため、正確に仕事をこなすだけでなく、「自分で考え、行動する力」も重要だと感じます。また、私の広報業務では、常にどのように情報を発信すれば適切に伝わるかを考える必要があります。事前準備を怠らず、柔軟に対応できる力を養うことが、成長の鍵だと思います。

及川 竹内さんのおっしゃる通り、事前準備は非常に重要です。そして、新しいことに興味を持ち、積極的に学ぶ姿勢も欠かせません。例えば、私の砂糖関連の業務では、砂糖以外の分野にも視野を広げることで、直面している課題を解決するきっかけになったり、他産業との連携の可能性を見出すことができます。自分の担当業務以外を学ぼうとする柔軟性が成長につながると思います。

竹内 確かに、広い視野を持つことで新たな可能性が見えてきますよね。広報業務でも、多様な意見に耳を傾け、異なる考え方を理解する力が求められます。それが結果的に、より良い情報発信につながると思います。

最後にこれからやってみたい ことを教えてください。

及川 私が目指しているのは、海外での業務を通じて諸外国の政策や考え方を学

び、そこで得た知識や経験を日本の政策に活かすことです。特に、人口減少や消費者意識の変化が進む中で、日本の農林水産省が抱える課題に対応するためには、多角的な視点が必要だと感じています。そのため、海外の優良事例などを、日本の農

水産省をより強くするための政策立案に活かしたいと思っています。

竹内 素晴らしいですね！私は、農林水産省が所管する幅広い分野の業務に挑戦することが楽しみです。中でも、特に「農泊」に興味があります。農泊は地域の魅力を国内外に発信できる素晴らしい取組で、地域の食材や体験を通じて、多くの人に日本各地の良さを知っていただけるような取組をもっと盛り上げていきたいです。

及川 農泊は地域の活性化にとっても効果的な取組ですね。竹内さんのように、広報の視点を持つ方が関われば、さらに可能性が広がります。

竹内 ありがとうございます！農林水産省では、多くの分野で新しい挑戦ができるので、今後も自分の興味を追求しながら、いろいろな経験を積んでいきたいです。

及川 私も同じです。これからも自分の視野を広げながら、日本の農林水産省を支える政策に貢献できるよう努力していきたいですね。

